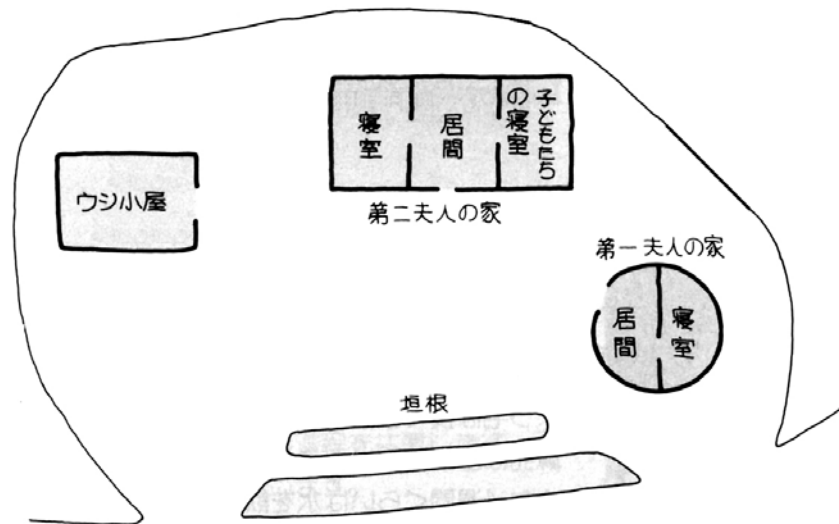


タンザニア ニャキュウサの家

ニャキュウサの人びとは、東アフリカ、タンザニア南西部の山地、標高 500~2000mのところに住んでいます。彼らが住むニャキュウサ・ランドは年間降雨量 2500mm 以上と雨に恵まれ、^{のうこう てき}農耕に適した土地です。^{かちく}家畜としてウシを飼いながら、バナナ、トウモロコシなど 40 種近くの農作物を栽培して暮らしています。



【丸い家と四角い家：大きさの違いはえこひいき!?!】

ニャキュウサは一夫多妻制の結婚制度をもっており、妻たちはそれぞれ別の家をもっていますが、一家の主人の家はありません。円形の家は四角い家よりも古いタイプです。第1夫人の子供たちはすでに親元を離れ、畑のそばに新しい家を建て、共同生活を始めていますが、第2夫人の子供たちは幼いので家が大きいという想定です。

気候と住まい：豊富な竹が家の材料

【高温で湿潤な気候：でも雨季はちょっとひきこもり】

ニャキュウサ・ランドでは、1年間に 2500mm もの雨が降ります。ちなみにここ犬山では 1588mm です。10月から翌年の5月までが雨季で、その間はスコールが一日に数回あります。月平均気温は年間を通じて 22~25℃ ですが、雨が降ると外は肌寒く、コートが必要になるほどで、雨季には人びとは家にこもりがちになります。

【タケを用いた家造り】

植生が豊かなニャキュウサ・ランド、とくにタケは自然に生えよく育ちます。豊富にある材料で家を作ることは、人類共通の知恵のひとつです。ニャキュウサの人びとは柱や棟木に一部木製の材料を用いるほかは、屋根や壁の骨組みにタケを用います。タケの骨組みに牛糞を混ぜた土を塗り込めて壁を立ち上げ、さらに丸竹と割竹を組み合わせて外壁とします。建築材としてタケの利用は、東アフリカでは稀です。

【タケの刻み目】

タケは真っ直ぐなようでも、かなり曲がっていてクセがあります。曲がったタケを矯正して真っ直ぐにするために、ところどころ刻み目をつけ、建築材としています。

【牛糞を混ぜた土壁：補強と防虫】

ウシの糞には未消化の草がたくさん入っており、これがひび割れを防ぐ（いわゆるスサ）役目を果たし、補強材となります。また牛糞には防虫効果があるともいわれます。

【丸い家と四角い家：大きさの違いはタケの長さのせい】

第1夫人の家の方が小さいのは、屋根の垂木にタケを用いるため、丸い家の大きさには限度があるからです。自生するタケの長さで家の大きさが決まってしまう。一方、四角い家は横方向にいくらでも延ばすことができます。